



露天風呂を望む声がある、ふれあいセンター

ふれあいセンターに露天風呂を

現時点では、難しい



名取末吉 議員

質問 ふれあいセンターに露天風呂を造る考えは。

答弁 前々から露天風呂を望む声があり、予算化を検討したことも

ありましたが、湯元との競合の問題、また入湯料金において営業サイドと福祉サイドの違いを解決しなければなりません。町だけの考えだけでは難しい問題があります。

答弁 介護保険等は複雑な事務であり難しい状況です。むしろ福祉行政間との連携が求められてお

質問 機構改革により、社会福祉協議会への町職員出向廃止の考えはもっていません。

社会福祉協議会への出向職員廃止の考えは出向廃止の考えはない

行政評価を活かした予算編成は評価により生きた行政サービスを行う



エンジェル 千代子 議員

質問 予算編成において、行政評価を活かした事業の見直しが必要と考えるが。

答弁 予算編成の基本姿勢は、削減を前提とした積算を念頭に、事業内容の精査をしてい

ます。行政評価は自己点検型ですが、個々の事務事業の必要性、また生きた行政サービスとなっているかのチェックを行っています。今後、『最少の経費で、最大の効果が得られるよう、行政評価等による事業の選別・的確な予算配分による財政のスリム化を図ってまいります。』

スキ-場への町費投入は相談をしながら進めたい

質問 パノラマスキー場について現在の状態での評価は。また町費投入のボーダーラインは。

答弁 当初計画時との差異は、収入が少ないことです。昨年度は9年ぶりに増収となり、計画から2年で下げ止まったことについては、一定の評価をしています。現時点でのボーダーラインは、賃貸料支払い不能時等、また施設の更新等に多額の費用を要する時期については、相談しながら進めたいと考えています。